

茨城県歯科技工士会生涯研修会開催案内

本年度の学会学術委員会として生涯研修会を開催致します。演者は、本県茨城県笠間市出身であり国内外での講演で活躍しています枝川智之氏を招へいし、デジタルを活用した審美歯科や現行のラボの運営などを中心に講演して頂く運びです。多くの関係者で沢山の情報を共有し、今後の歯科技工ライフに生かしていきたいと考えています。是非、予定して頂き多くの参加をお願い致します。【自由研修課程】

日時 2024年12月1日(日) 13時開演 17時終演 (12時30分受付開始)

場所 水戸市市民会館 301号室 (会場に車でお越しの際、駐車料金は有料になります)

水戸市泉町1丁目7番1号 ☎029-303-6226

演者 枝川智之 (千葉県歯科技工士会・東葛北支部所属)



【演者紹介】

- 1970年 茨城県生
- 1991年 茨城歯科専門学校卒業
- 1992年 早稲田トレーニングセンター卒業
- 1992年 同校インストラクター入社
- 1998年 中田デンタルセンター テクカルアドバイザーとして入社
- 2000年 有限会社 PASHA デンタルラボラトリー 開業
- 2006年 松風インストラクター就任
- 2007年 にしむら塾3期生 卒業
- 2008年 MCS非常勤講師 就任
- 2015年 松風アドバイザー 就任
- 2016年 デンタルアカデミー東京 非常勤講師 就任

演題 デジタルと技術の融合を目指した考え方

『抄録』近年では、デジタルの進化によりCAD/CAMを活用することで、ある程度の工程を効率よく品質を安定させることが出来るようになりました。しかし、デジタル技工が全ての工程で満足出来るクオリティには至らず、臨床の経験値や技術力、また材料に対する知識が必要とされています。デジタル機器を活用し生産性を上げるには、機器の特性を把握して適切に活用することが重要である一方、扱う側の時間の無駄を省くことや、スタッフ間の連携を強化することでかなりの効率化になると考え「効率よく働く考え方」や、「スタッフの教育と育成」を考えたシステムを構築することが生産性向上になるのではないのでしょうか。デジタルを活用する上で大切なことの一つは、天然歯の形態や色調をよく理解し学ぶ必要があり、私がこの知識と技術力を身につけることができた一つの要因は、山本眞先生、西村好美先生との出会いがあります。2000年にPasha Dental Laboratoryを開業後の2005年に西村好美先生が主幹されている「にしむら塾」を受講したことで、天然歯の色調形態や噛み合わせなど、技術的なことからラボの経営者として、また一人の人間としての在り方、考え方などを学ばせていただきました。2006年には山本眞氏が審査委員長を勤めた「The Next Generation Ceramics Technical contest」の入賞を機に松風インストラクターとなり、その後2014年に松風アドバイザー 就任に至り

ました。松風インストラクターに就任したことにより、材料やシェードシステムなどの知識を深めることで、臨床が大きく変わり、影響があり特に、山本眞先生が考案された「ヴィンテージアートユニバーサル山本リキッド（以下、山本リキッド）」の活用があります。従来のステイン液では、屈折率 1.42 と陶材の屈折率 1.50 の違いからステインの焼成前と焼成後ではステインの色が違う問題がありました。陶材の主成分である基材ガラスと同じ屈折率 1.50 に設計された山本リキッドと VINTAGE Art Universal stain を使うことの恩恵は、塗布の段階で焼成後の色調を確認しながら工程を進められ、CAD/CAM で制作されたモノリシックジルコニアにステインをする作業など、特に山本リキッドの活用が有効となります。前歯部審美エリアの補綴制作では、モノリシックにステインで仕上げる方法の他に、舌側切縁までジルコニアを残し唇側のみカットバックをして薄くレイヤリングする、ライトレイヤリングタイプといった方法も臨床では多く用いられています。本講演では、山本リキッドの具体的なステイン法や、多数歯審美補綴のケースでは、顔貌から歯牙のポジションを決定し、3D データの重ね合わせで得られた情報から、適切なジルコニアを選択をし、ライトレイヤリングによる薄いレイヤリングスペースにおいても山本リキッドを使ったステイン法と同様の考え方や手法を活かすことで、制作の工程はシンプルで完成時は、複雑で深みのある天然歯のようなセラミックスの表現手法を分かりやすくお伝えしたいと思います。今回の講演ではデジタル・経営・教育の分野を通して成果を変えるための「思考の習慣」を考え、将来の vision を見据える機会になればと思っています。

近年では、デジタルの進化により CAD/CAM を活用することで、ある程度の工程を効率よく品質を安定させることが出来るようになりました。しかし、デジタル技工が全ての工程で満足出来るクオリティには至らず、臨床の経験値や技術力、また材料に対する知識が必要とされています。デジタル機器を活用し生産性を上げるには、機器の特性を把握して適切に活用することが重要である一方、扱う側の時間の無駄を省くことや、スタッフ間の連携を強化することでかなりの効率化になると考え「効率よく働く考え方」や、「スタッフの教育と育成」を考えたシステムを構築することが生産性向上になるのではないのでしょうか。今回の講演ではデジタル・経営・教育の分野を通して成果を変えるための「思考の習慣」を考え、将来の vision を見据える機会になればと思っています。

以上

参加費（資料代） 茨城県歯科技工士会会員及び日本歯科技工士会会員・専門学生・・・1000円
非会員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2000円

参加申し込み 茨城県歯科技工士会事務所（月/木曜日お昼のみ）や茨城県歯科技工士会ホームページ「問い合わせフォーム」より申し込み下さい。不明な点等に関しては生涯研修担当長山（0295-53-5155デプラボ内）まで。

締め切り 11月20日（水）

前夜懇親会 受講申し込みの方々に前日の11月30日（土）19時より演者枝川氏を囲んでの懇親会を開催予定したいと思います。場所は水戸市内で会費6000円ほど。参加希望の申し込み後に企画の通知を致します。

茨城県歯科技工士会ホームページ QR コード申し込み →→→→→

